

ある日の育児日記から

(86)

佐藤 和代



有の手がかさかさ荒れて、血がにじむようになってしまいました。病院で診てもらうと、先生はひとこと「アトピーですね」。

そうかあ、有も出たか。圭は赤ん坊の頃アトピーと言われていました。やっぱり体質は似るのかな。

ともあれ、もらってきた薬を手足に擦り込みます。「ここもかゆい」「こっちも塗って」あっちこっち塗っていると、何となくうれしくなってくるのが不思議。圭が小さいころ、やっぱりこんなふうに薬を塗って、そのまま裸で遊ばせたっけ。このころ、あまり子どもの体にさわることなかった。

小さいうちはいつも肌にあぶれていたのね。最近、圭も有もスキんシップが足りなかったかな。

保育園の先生に「子どもが病気になるったら、頭に手をあてたりぎゅっと抱いたりして、いっぱい心配していいんです。子どもなんて、そうしてほしくて病気になるようなものだから」と言われたことがあります。もしかししたら、五歳になって急にアトピーがでるなんて、「お母さん、もうちょっとボクにさわってよ」ということなのかしら。

軽いアトピーだからのんきなこと言っていられるのだと思うけれど、薬を塗るたび、ついでにちよつとくすぐって遊んで、二人で楽しんでしまっています。

